

住みよい小山をつくる会 第3回基地跡地利用ワーキング 議事概要

日時：平成18年11月28日（火） 午後7時00分～9時15分

会場：小山公民館 中会議室

1 アンケートの集計結果の分析

アンケートの回収結果について、有効回答数は1,662件、自由意見記入は約400件、自由意見欄に記載された意見はアンケートのQ1の選択肢を主なキーワードとして分類したことから、「文化施設と福祉施設」のように複数のキーワードに関して記述している意見については、それぞれのキーワードに重複して分類したことが報告された。

<主な意見>

- ・全体として、最も多かった回答は公園・緑地・広場。世代別では、高齢になるほど福祉施設の要望が多く、40代から若くなるほどレジャー施設が多くなり、要望に年代差が見られる。地域別ではそれほど差は見られない。
- ・全体の傾向では、公園・広場、文化、商業、体育が上位グループ、福祉、コミュニティ、レジャー、行政施設が中位グループになっている。
- ・自由意見で中学校の建設を求める意見が多い。私の子も40分かけて中学に通っている。
- ・住宅展示場が中学校の予定地で、交渉の余地がある。
- ・50代、60代は公園希望が多い。レジャー施設は街の発展に期待する人と非行化を心配する人に二極化。
- ・アンケートの作り方で、建物や樹木をおけない35haの共同使用がQ2で後にきて、市民が自由に考えられる15haについてのQ1が先にきたために、Q1でまず公園・広場の要望が多く、自由意見も公園・広場についての意見が多くなったと感じた。これを逆の順番で質問したら、違った結果が出たのではないか。

2 コンセプト

次回企画会議に報告するコンセプト案の方向性について議論を行った。ここで言うコンセプトとして次の2点が確認された。

概念的、抽象的なモノでなく、具体性のある柱となる考え方で、それを目安にして個々の意見を引き出すものとして使うこと。

アンケート結果で回答が多いからといってそのままコンセプトにするのではなく、自由意見を参考にしてアンケートデータに解釈を加えたコンセプト案を企画会議に報告すること。

<主な意見>

- ・Q1とQ2合わせて50haをすべて公園の回答が多いが、これを逆にQ2を先に出していたら、15haについては公園・広場が減り、文化施設が増えるのではないか。
- ・市にお金がないなかで何を建てるかと考えると、民間と連携した高層マンションや商業施設、福祉施設になるのだろうか。
- ・相模原は緑が少なくなっているので、公園や緑の広場を求めるのではないか。橋本駅前のような高層マンション街は、お年寄りがビル風で歩けないといった話を聞く。
- ・昭和記念公園のような公園という意見もあるが、規模からいって今回の土地では不可能。やはり、合併して大きくなった相模原市のへそとして、市全体の役に立つ施設が入ってほしい。市役所と多目的ホール、公民館を考えている。公園、広場は35haで考える。
- ・相模原市全体として、利用価値を考えると、駅の近くは経済的に寄与するものを建てる。オフィスビル、マンションも必要。空き地、オープンスペースにしたら寄与しない。商業施設については、駅南口の商店街の問題も含めて考え、小田急と連携して返還される北側と一体で考える必要がある。

- ・駅前仅此だけの土地が更地であるのは珍しい。ここにマンションや商業施設を建てたら、元に戻らない。もったいない気がする。現実的ではないかもしれないが、地下に建物を入れ、上はなにも建てないということもできないか。
- ・市内にほかに公園があるといっても、年寄りにはなかなか行けない。
- ・近くにない施設、機能をつくる。セントラルパークやハイドパークのように暮らし、ビジネスと公園が一体化したものがいい。
- ・駅前だから高層ビルとマンションとか商業施設にしなくてはいけないといったら、どこにでもあのような街並みになってしまう。
- ・何にこだわるか、個人の好みの問題。図書館、美術館に行く人は遠くでも行く。
- ・PCBによる土壌汚染、跡地の返還が無償か有償か、小田急線が来るか来ないかでも土地利用が変わる。

最も回答の多い公園・広場の解釈が議論になっていることと、コンセプト案として次の2つを企画会議に提案することとした。

駅前の手付かずの土地だからこそ、広いスペースをいかした公園・緑・広場というコンセプト

市の中心部にふさわしい施設というコンセプト

土壌汚染などいくつかの留保事項をあげたうえで意見書をまとめることとする。

3 今後の進め方の検討

(1) 小田急との連携

- ・つくる会から、こういうことをしたいから協賛していただきたいと呼びかけないと、のってこない。連携の内容は跡地利用がまだ知られていないので、その情報発信、PRを行う。小田急を巻き込めば効果的だ。

(2) 意見収集機会の企画・実施

- ・企画会議では、アンケートは1回だけでいいのかという意見があった。たとえば、全体会で柱となる案をまとめたところで、再度地域に戻して、その案についてアンケートをするという方法がある。あるいは地域に出かけて、ヒアリング、ミーティングなどで個別に意見を聞くという方法もある。タイミングとしては12月下旬から1月にかけてになる。
- ・相模原の都市計画はこれまで厳しくいえば、相模大野も橋本も失敗している。
- ・相模大野は駅地下に駐車場をつくり、駅前が渋滞した。橋本も渋滞がある。
- ・もう1回住民に聞くと、改めて真剣に考えると思う。
- ・自由意見を十分に見ていけば、意見書をまとめられる。
- ・行政も最近は案をつくとパブリックコメントを求めている。案をもう1度地域に聞くことはあり得る。
- ・提案する責任がある。35haを公園にするといってもどのようなイメージかわからない。15haは利便性を求めているということで、いくつか主だったパターンにまとめて提案することになる。
- ・アンケート協力者への結果のフィードバックが必要ではないか。
- ・自治会の回覧に載せて知らせることは、最低限必要だ。

全体会の案内チラシの裏面にアンケート結果を掲載し、自治会回覧に載せて地域住民に周知する